

武石地域自治センター

令和6年度 重点目標

- 1 過疎地域持続的発展計画に掲げる主要事業等の推進
- 2 まちづくり活動拠点の整備、参加・協働による地域づくりの推進及び防災体制の強化
- 3 多彩な地域資源を生かした観光の振興、活力ある農業の推進
- 4 地域に根ざした医療の維持・充実

重点目標		過疎地域持続的発展計画に掲げる主要事業等の推進			部局名	武石地域自治センター	優先順位	1 位
総合計画における位置付け		第 1 編 市民が主役のまちづくり 第 1 章 自治の推進による活力ある自立した地域社会の実現 第 1 節 参加と協働による自治の推進			上田再構築プラン Ver.2.0「もっと、前へ」における位置付け	1 大切な市民の命を守り続ける医療体制の充実を推進する 5 DXやGX等の革新的技術でSDGsを推進、人と自然が調和した活力あるまちをつくる		
第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け		(1) 将来を見据えた新たな行政サービスへの改革 ア ICTの活用による行政サービスの向上と業務の効率化						
現況・課題	○ 上田市過疎地域持続的発展計画に沿った事業の推進をし、地域のさらなる発展と人口増加につなげていく必要があります。 ○ スマートシティ化への取組は、上田市スマートシティ推進化計画に基づき推進します。 ○ 武石地域は、地域資源として、「美ヶ原高原」「道の駅 美ヶ原高原」を有しており、県内外から多くの観光客が訪問しているが、地域資源を十分に生かし切れていない。							
目的・効果	○ 上田市過疎地域持続的発展計画に沿った事業を推進し、地域のさらなる発展と人口増加につなげる取組を目指します。 ○ スマートシティ化への取組は、個別施策について関係課とともに推進します。 ○ 地域資源である美ヶ原高原を活用したウォーキング等のイベントを開催することで武石の魅力を発信することができ、武石地域に訪れる人が増えること及び市全体での交流人口の増加が期待でき、地域の活性化にもつながる。				該当するSDGsの目標			
	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限 （いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告 （目標に対する進捗状況・進捗度）及び （中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）		期末報告（目標に対する達成状況・達成度）		
①	○ 過疎地域持続的発展計画に沿った事業の推進 （1）過疎債、過疎交付金を活用した事業の計画及び推進と、計画の中間見直し実施 （2）空き店舗等活用支援事業の推進	（1）4月～3月 （2）4月～3月	（1）計画及び推進 計画中間見直し実施 （2）交付金実績 2件	（1）過疎債、過疎交付金活用事業については、予定通り進行中 過疎計画の中間見直しについては、9月末現在中間評価（案）を作成済 中間評価に関する住民説明会を開催予定（10/1） （2）交付金支給実績 1件		（1）計画に基づき過疎債9事業（ハード5事業、ソフト4事業）、過疎交付金1事業を実施 令和7年度実施計画において登載5事業、項目計上2事業 過疎計画の中間評価に関する住民説明会を開催（10/1） 意見募集（10月実施）の結果を踏まえ中間評価決定 （2）交付金支給実績 1件		
②	○ 武石スマートシティ実証プロジェクト事業関連 （1）未整備地域の3Dマップ作成 （2）ドローンによる通学路等の見守りと安全確認、水田の転作物確認の実証実験 （3）RTK中継基準局を活用し、ロボット芝草刈機の自動運転の実証実験	（1）8月～3月 （2）8月～3月 （3）8月～12月	（1）年度内作成 （2）協力農家、業者との調整し、実証実験の実施 （3）業者と実証実験の検討、実施	（1）計画区域について、ドローンでの撮影は実施済 （2）転作確認については、実証実験が終了、見守り及び追加となった頭首工確認は現在進行中 （3）武石マレットゴルフ場、総合グラウンド、武石小学校グラウンドで計6回実証実験を実施		（1）計画区域について作成済 （2）ドローンにより通学路等の見守りと安全確認、水田の転作物及び頭首工確認の実証実験を実施（12月） （3）武石マレットゴルフ場、総合グラウンド、武石小学校グラウンドで計6回実証実験を実施		
③	○ 人生100年時代づくり・地域創生ソフト事業の実施 （1）「健康づくり・魅力づくり」武石魅力発信体験事業の実施	（1）4月～3月	（1）歩き方講座を開催 美ヶ原高原台上等でのイベントを開催	（1）美ヶ原高原台上にてイベント実施（8/25） （ティラさんぽ18人参加 マルシェ119人参加） 歩行ケア体験会を2回開催予定（武石地域交流秋まつり参加者対象（10/12）、武石小学校保護者対象（10/28））		（1）美ヶ原高原台上にてイベント実施（8/25） （ティラさんぽ18人参加 マルシェ119人参加） 歩行ケア体験会を2回開催（武石地域交流秋まつり参加者対象（10/12、25人）、武石小学校保護者対象（10/28、5人））		
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点			○取組による効果・残された課題				

令和6年度 重点目標管理シート

重点目標		まちづくり活動拠点の整備、参加・協働による地域づくりの推進及び防災体制の強化		部局名	武石地域自治センター		優先順位	2 位
総合計画における位置付け		第 1 編 市民が主役のまちづくり 第 1 章 自治の推進による活力ある自立した地域社会の実現 第 1 節 参加と協働による自治の推進		上田再構築プラン Ver.2.0「もっと、前へ」における位置付け	3 福祉を充実し、多様性を尊重した地域共生社会を実現する 5 DXやGX等の革新的技術でSDGsを推進、人と自然が調和した活力あるまちをつくる			
第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け		(1) 将来を見据えた新たな行政サービスへの改革 イ 多様な主体が市政に参画・協働する制度づくり						
現況・課題	○ 武石地域総合センター整備は、駐車場・広場整備事業の工事完了し、施設の利用促進を実施する。 ○ 住民自治組織が市民の参加と協働によるまちづくりをさらに推進するため、意見交換や学習会の機会を設け理解を共有しながら地域内分権を進めていく必要があります。 ○ 第二次武石地域全域公園化構想関連事業の推進は、平成22度策定の当初構想を「美しい武石地域はの景観を存続する」ために自治連、地域協議会、住民自治組織、市の四者で見直し、令和元年度末に第二次武石地域全域公園化構想が策定されたことから、改めて地域住民へ周知するとともに、引き続き、樹木破碎機、乗用草刈機、畦草刈機等の貸出をはじめ、獣害対策、花木苗支給等についても協働による景観整備を進める必要があります。 「信州武石余里一里花桃の里」の運営は、武石地域の地区における代表的な住民組織の取組であり、武石地域全域公園化構想の推進からも運営支援を継続する必要があります。 ○ 自主防災組織の育成と防災訓練の実施は、全国的に自然災害が頻発する中、武石地域では地域内の全自治会で災害時要援護者登録制度による住民支えあいマップが完成しており、自治会ごとの防災、避難体制の整備を進めてきましたが、武石地域は特に高齢化が進行していることから、各種警報発令時および災害時の避難方法、防災の備え、災害時の「自助・共助」等について、さらに住民自ら積極的に取組む自主防災組織の育成が必要です。							
目的・効果	○ 機能的で利便性の高い市民団体の活動拠点および防災拠点とする武石地域総合センターを整備し、市民との連携を深めることにより多くの市民の社会参加、健康づくり、生きがい対策、地域の賑わいの創出まで含めた市民協働による開かれた地域づくりを推進します。 ○ 地域の取組に対する人的・財政的支援を通じ、住民自らが地域の抱える課題を解決できる仕組みづくりを進めます。 ○ 第二次武石地域全域公園化構想の理念を広く周知し、自らの地域を自らの手で美しくする活動を積極的に推進することで地域コミュニティの活性化が図られます。 「信州武石余里一里花桃の里」に対して、継続して運営支援することにより、武石地域全域公園化構想の推進が図られます。 ○ 自主防災組織の育成と防災訓練の実施は、自主防災組織リーダー研修、各自治会での防災訓練等により、地域住民の防災に対する認識と能力を高め、万が一の災害時にも被害を最小限に留めるとともに、互いに支え合う地域づくりを推進し暮らしの安心につなげます。			該当するSDGsの目標	  			
	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告 （目標に対する進捗状況・進捗度）及び （中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）		期末報告（目標に対する達成状況・達成度）		
①	○ 武石地域総合センター整備 (1) 駐車場、広場整備事業 (2) 駐車場、広場の運用検討 (3) 施設の利用促進（武石公民館と連携）	(1) 4月～8月 (2) 4月～8月 (3) 4月～3月	(1) 工事完了 (2) 運用確認 (3) 庁舎内共有スペースの有効活用	(1) 工事完了（8/30）、オープン記念式典実施予定（10/12） (2) 管理要領を作成し、供用開始（9/2～） (3) 共有スペース（ホワイエ）に、ボールプール等設置し、住民の集える場として利用を促進		(1) 工事完了（8/30）、オープン記念式典実施（10/12） (2) 管理要領を作成し、供用開始（9/2～） (3) 共有スペース（ホワイエ）に、ボールプール等設置し、住民の集える場として利用を促進		
②	○ 住民自治組織との連携によるまちづくり事業への支援 (1) 住民自治組織との連携とまちづくり計画に基づく支援	(1) 4月～3月	(1) 地域担当職員としての事業協力	(1) 効率的な組織運営と効果的な事業展開に向けて支援・協力を行った。		(1) 効率的な組織運営と効果的な事業展開に向けて支援・協力を行った。		
③	○ 第二次武石地域全域公園化構想関連事業の推進 (1) 構想の周知と地域住民による協働事業の支援 (2) 獣害防止柵設置資材等支給事業 (3) 樹木破碎機、草刈機の貸出事業 (4) 「信州武石余里一里花桃の里」運営支援事業	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月 (3) 4月～3月 (4) 4月～5月	(1) 自治センターだよりに掲載 2回以上 (2) 自治会等2団体以上への支給 (3) 自治会等へ延べ10回以上 (4) 地域活動団体等との協働と支援	(1) 地域自治センターだより 2回掲載 七ヶ有志の花壇整備の作業（7月号） 乗用草刈機、畔草刈機、樹木破碎機の貸出（9月号） 公園化構想4者協議開催（7/16） (2) 3自治会へ支給 (3) 自治会等へ延べ28回貸し出し (4) 無料シャトルバス運行（4/20. 21. 27. 28. 29の5日間） 仮設トイレ4基設置支援（4/12～5/7）		(1) 地域自治センターだより 3回掲載 七ヶ有志の花壇整備の作業（7月号） 乗用草刈機、畔草刈機、樹木破碎機の貸出（9月号） 松くい虫樹幹注入作業（11月号） 公園化構想4者協議開催（7/16、10/21、1/24） (2) 4自治会にワイヤーメッシュ30枚、支柱10本支給 (3) 自治会等へ延べ34回貸し出し (4) 無料シャトルバス運行（4/20. 21. 27. 28. 29の5日間） 仮設トイレ4基設置支援（4/12～5/7）		
④	○ 防災体制の強化及び防災の向上に向けた取組 (1) 警報・災害対応連携 (2) 防災訓練の実施 (3) 自主防災組織リーダー研修会の実施	(1) 4月～3月 (2) 7月～9月 (3) 2月～3月	(1) 本庁各担当課、武石地区防災支援協会との継続的な連携体制の強化 (2) 参加者150人程度 (3) 全18自治会対象50人程度	(1) 危機管理防災課・自主防災アドバイザーとの意見交換会への参加 自治会・住民自治組織主催による防災研修会（9/21）への協力 本庁担当者、防災支援協会と連携し、豪雨等による被災状況の確認を迅速に行った。 (2) 台風接近により中止（8/31実施予定）となったが、災害発生時の体制について確認を行った。 (3) 3月実施予定		(1) 危機管理防災課・自主防災アドバイザーとの意見交換会（5/17、1/15）への参加 自治会・住民自治組織主催による防災研修会（9/21）への協力 本庁担当者、防災支援協会と連携し、豪雨等による被災状況の確認を迅速に行った。 (2) 台風接近により中止（8/31実施予定）となったが、災害発生時の体制について確認を行った。 (3) 研修会の開催（3/12、43名参加）		
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点			○取組による効果・残された課題				

令和6年度 重点目標管理シート

重点目標		多彩な地域資源を生かした観光の振興、活力ある農業の推進			部局名	武石地域自治センター	優先順位	3 位	
総合計画における位置付け		第3編 誰もがいきいき働き産業が育つまちづくり 第1章 次代へつなぐ農林水産業の振興 第2節 農林業の安定的な生産体制の整備と産地化の推進 第3章 魅力ある観光地づくり 第1節 おもてなしで迎える観光の振興			上田再構築プラン Ver.2.0「もっと、前へ」における位置付け	5 DXやGX等の革新的技術でSDGsを推進、人と自然が調和した活力あるまちをつくる			
第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け		(2) 健全で持続可能な財政基盤への改革 ウ 市有財産の適切な管理と利活用 エ 公共施設マネジメントの推進							
現況・課題		○ 令和6年11月に、練馬区と旧武石村の友好提携30周年を迎えることから、記念する事業の検討が必要である。 ○ 観光施設等の公共施設については、施設の老朽化が進み、本格的な人口減少社会を迎えた中で、将来の人口・財政規模を見据えた施設の適正化が求められています。 ○ 武石番所ヶ原スキー場リフト施設は、計画的な整備が必要とされています。 ○ 将来における地域農業の方向性を明らかにするため、令和7年3月までに「地域計画」の策定が求められています。 ○ 美ヶ原高原台上に残された廃墟物件等は美観上及び保安上課題があり、早急に撤去する必要がある。 ○ 台上の名産センター周辺は魅力ある資源でもあるため、隣接の廃墟物件と併せ再整備が必要である。							
目的・効果		○ 記念事業を実施し、さらなる交流の推進を図られる。森林環境譲与税の活用事業を行うことにより、上田市産木材の利用拡大を図ります。 ○ 観光施設等の公共施設について、「公共施設マネジメント基本方針」に基づき、財政負担の平準化や縮減を図るとともに、公共施設を適切に維持管理し、時代の変化に対応させつつ有効に活用することで、必要なサービスの提供を将来にわたり継続します。 ○ 武石番所ヶ原スキー場の第2リフトのハウスは経年劣化が進んでおり、長寿命化のための整備を計画的に実施し、利用者に対する安全性を確保します。 ○ 5年後、10年後の武石地域の農地の維持・発展と地域農業の方向性を明らかにするために「地域計画」を策定します。 ○ 美ヶ原高原台上の再整備を行うことにより、地域の誇れる観光資源となり、住民の観光地保全意識の向上等に寄与し、武石地域に訪れる人が増えること及び市全体での交流人口の増加が期待できる。 ○ 美ヶ原台上の資源としての価値を向上させるため、整備の方向性について検討します。				該当するSDGsの目標	  		
	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）及び（中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）		期末報告（目標に対する達成状況・達成度）			
①	○ 練馬区との友好提携30周年記念事業の実施 (1) 森林環境譲与税を活用した事業の実施	(1) 4月～3月	(1) 練馬区バスツアー受入（8月）	(1) 練馬区との共催で「夏休み親子バスツアー」を実施（8/24 練馬区39人参加、上田市18人参加）		(1) 練馬区との共催で「夏休み親子バスツアー」を実施（8/24 練馬区39人参加、上田市18人参加） 【森林環境譲与税は未活用】			
②	○ 観光施設等の整備事業等の推進 (1) 武石温泉うつくしの湯（機械設備などの更新） (2) 武石番所ヶ原スキー場（リフト整備） (3) 道の駅美ヶ原高原駐車場（転落防止柵工事） (4) 雲溪荘の廃止（公共施設として）に向けた対応	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月 (3) 4月～3月 (4) 4月～3月	(1) 年度内完了 (2) 年度内完了 (3) 年度内完了 (4) 条例改正、指定管理更新手続、公共施設廃止後の検討等	(1) 工事内容の調整による繰越明許予定 (2) 年度内完了予定 (3) 年度内完了予定 (4) 宿泊廃止のための条例改正（6月議会議決） 指定管理更新手続（12月議会議案提出予定）		(1) 繰越明許及び債務負担行為（12月議会） (2) 11月未完了 (3) 11月未完了 (4) 宿泊廃止の条例改正（6月議会議決） 指定管理更新手続（12月議会議決）			
③	○ 将来における地域農業の方向性を明らかにする「地域計画」策定に向けた取組 (1) 地域計画策定に向けた地域懇談会の開催 (2) 地域計画の作成	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月	(1) 2回以上開催 (2) 年度内作成	(1) 地域懇談会の開催（8/21）、2回目開催予定（1/16） (2) 懇談会の内容をまとめ、年度内作成予定		(1) 地域懇談会の開催（8/21）、2回目開催（1/16） (2) 3/31策定・公表			
④	○ 美ヶ原台上の整備及び資源としての価値の向上 (1) 美ヶ原台上の建物管理及び整備の方向性の検討 (2) 美ヶ原高原美術館、道の駅事業者との情報共有	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月	(1) 台上を活用したイベントの実施及び実施計画への登載に向け整備の方向性を検討 (2) 定期的に会合開催	(1) 美ヶ原高原台上にてイベントを実施（8/25） 廃墟解体について、庁内での合意形成を得て、解体に向けあらゆる可能性を検討するため、3社の民間業者との折衝を実施した。 (2) 運営業者、国、県との打合せを実施し、現状の課題と今後の方向性を情報共有した。		(1) 美ヶ原高原台上にてイベントを実施（8/25） 美ヶ原高原整備事業について実施計画項目計上 市政経営会議で廃墟物件の解体について政策決定（11/14） 令和7年度当初予算へ解体に向けた設計等経費を計上 (2) 運営業者、国、県との打合せを実施し、現状の課題と今後の方向性を情報共有した。			
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点			○取組による効果・残された課題					

重点目標		地域に根ざした医療の維持・充実			部局名	武石地域自治センター	優先順位	4 位
総合計画における位置付け		第 4 編 健康・福祉ともに支え合い健やかに暮らせるまちづくり 第 1 章 自分らしい豊かな人生を送る健康づくり 第 2 節 安心して医療が受けられる環境づくり			上田再構築プラン Ver.2.0「もっと、前へ」における位置付け	1 大切な市民の命を守り続ける医療体制の充実を推進する		
第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け		(2) 健全で持続可能な財政基盤への改革 イ 健全な財政基盤の構築						
現況・課題		○ 地域の人口減少とともに患者数は減少傾向にあり、地域で一番身近な医療機関として、高齢者のみならず誰もが安心して医療が受けられるよう安定的な医療提供体制を構築していく必要があります。こうしたことから、令和3年度に策定した武石診療所のあり方についての方針に基づき、国保依田窪病院との新たな連携体制の検討が必要となっています。						
目的・効果		○ 武石地域唯一の医療機関として、今後も引き続き医療サービスを提供するとともに、医療だけでなく福祉や介護などの関係機関と連携を図り、地域住民の健康増進に寄与します。また、これまでの在宅医療を大切にした家庭医として、プライマリケア（患者が最初に接する医療の段階）を実践し、生活全般をケアできるような診療体制の充実と診療所の安定した運営を行います。				該当するSDGsの目標		
	取組項目及び方法・手段（何をどのように）		期間・期限 （いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告 （目標に対する進捗状況・進捗度）及び （中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）		期末報告（目標に対する達成状況・達成度）	
①	○ 武石診療所の維持・充実 （1）国保依田窪病院からの支援体制の協議・検討		（1）4月～3月	（1）時間外診療、宅直制度について再検討する。 院外処方割合の増	（1）時間外診療については、予約制とし予約患者がいない日の時間外診療は休診とした。 宅直制度については、訪問診療・訪問看護事業を続ける間は継続する。 院外処方率 約80%（令和6年度当初 約40%）		（1）時間外診療については、予約制とし予約患者がいない日の時間外診療は休診とした。（5月13日（月）から） 宅直制度については、訪問診療・訪問看護事業を続ける間は継続する。 院外処方割合 年度平均約80%（年度当初 約40%）	
	（2）診療所のPR等情報発信		（2）4月～3月	（2）地域自治センターだよりに記事掲載 年6回 ホームページ更新、エリアトーク、メール、Twitterによる情報提供 随時	（2）地域自治センターだより「武石診療所通信」3回掲載（5.7.9月号） 診療所からのお知らせ等、ホームページ、エリアトーク等により随時住民へ周知した。 地域内行事で参加者の救護、健康相談等に従事した。		（2）地域自治センターだより「武石診療所通信」に6回記事を掲載 診療所からのお知らせ等、ホームページ、エリアトーク等により随時住民へ周知した。 地域内行事で参加者の救護、健康相談等に従事した。	
	（3）訪問診療、訪問看護の充実		（3）4月～3月	（3）訪問診療件数の増加（令和6年度当初 23件） 訪問看護件数の増加（令和6年度当初 5件）	（3）訪問診療 20件（患者の施設入所等により減少） 訪問看護 5件（増減なし） 訪問診療等必要な患者について、地域包括支援センターや地域のケアマネジャー等と情報共有（2回/月）		（3）訪問診療 18件（施設入所等により減少） 訪問看護 3件（施設入所等により減少） 訪問診療等必要な患者について、地域包括支援センターや地域のケアマネジャー等と情報共有（2回/月）	
	（4）ふるさと寄附金を活用した財源の確保		（4）4月～3月	（4）ふるさと寄附金の診療所基金への積立額 10,000千円	（4）ふるさと寄附金 令和6年9月末現在 896件 17,843千円		（4）診療所基金への積立額 10,747千円（寄附金額42,745千円決算見込）	
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点				○取組による効果・残された課題			